

農薬飛散を防ぐために

農薬を散布する場合は、
周辺への飛散防止に努めるなど
十分な配慮をしましょう。



農薬使用の回数と量を減らそう

●病害虫や雑草の早期発見に努める。

多発してからでは、1回の防除で十分な効果が期待できない場合があります。

●病害虫の適期防除に努める。

病害虫の発生は年によって異なるので、
その年の病害虫の発生状況などを確認し
て適期防除に努めましょう。

●農薬以外の防除対策にも取り組む。

伝染源にならないように被害作物を適切に処
分したり、防虫ネットや抵抗性品種を導入する
など総合的な防除対策に取り組みましょう。

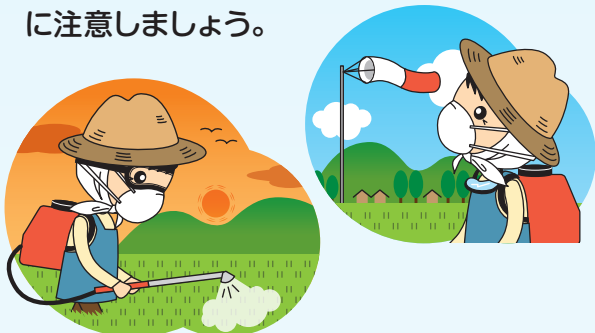
農薬を使用する場合に守るべきこと

●飛散の少ない形状の農薬を選ぶ。

粒剤など飛散の少ない農薬を選択しましょう。

●農薬の飛散防止に最大限の配慮をする。

農薬の散布は、風がないときにおこないま
しょう。農薬散布中は風向きやノズルの向き
に注意しましょう。



●事前に十分な周知をおこなう。

農薬を散布する場合は、事前に周囲の方等へ
十分な周知をおこないましょう。

●農薬はラベルに記載された 内容に従って使う。

対象の作物に登録の
ある農薬を、ラベルに
記載された内容を守っ
て使用しましょう。



●農薬の使用履歴を記録し保管する。

農薬を使用した年月日や場所、対象作物、
使用した農薬の商品名、希釈倍数・10a当
たりの使用量等について記帳し保管しま
しょう。



水田の止水期間 7日間を守りましょう

○使用前に農薬のラベルを必ず読みましょう

使用基準のほか、止水に関する注意事項等も確認しましょう。

○湛水状態の水田において農薬を使用するときは、 止水期間を7日間としましょう

○あぜ塗りや畦畔シートで、畦畔からの漏水を防 ぎましょう

水田外へ農薬が流出し、生物や周辺環境へ悪影響とならないように配慮しましょう。



7日間、落水や
かけ流しをしないことで、
農薬の効果がしっかり発揮され、
環境保全につながります。